

## 2 アンケート結果概要

・全体を通して、前回（平成25年7月実施）アンケートと今年度アンケートの回答の選択傾向に大きな差異はみられなかった。

・問3で、「いまがんばっていること、力を入れていること」の問いに対して、「勉強」と答えた率が前年と比べて小学5年生では6.5%、中学2年生では7.5%増加した。また、「友達ちとの遊びや活動」と答えた率が前年と比べて小学5年生では1.9%、中学2年生で6.2%減少した。

・問5-1から、小学5年生、中学2年生とも、ほめられた時や自分の言うことを聞いてくれるときだけでなく、注意してくれたり、しかってくれたりするのも、大切に思われているからと考えていた。

「気にかけてもらえる」ということが、大切に思われているということだと考える傾向がみられた。

・問6、問6-1で、小学5年生の91.4%、中学2年生の89.4%が「学校は楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えており、友達ち、勉強、部活などいろいろな要因がある中で、楽しい場合も楽しくない場合も友達ちを要因としてあげる子どもが多かった。

・問7-1は前年から設けた設問であり、「まわりでいじめがある」「いじめをみたことがある」と回答した小学5年生は38.2%、中学2年生は20.0%であった。小学5年生と中学2年生で18.2%も違いがあるのは、「いじめ」の捉え方が小学生と中学生で大きく異なるものと考えられる。

・問12でなんらかの相談窓口を知っていた（無回答含む）のは、小学5年生の49.4%（前年比2.3%増）、中学2年生の72.5%（前年比3.6%減）であった。特に子どもの悩み総合相談室は小学校5年生の認知度が前年と比べ6.5%増加しており、毎年継続してチラシやカードを配布するなどの各相談窓口の周知を図った結果と考えられる。

・問17子ども条例の認知度は「知っている」、「聞いたことはあるが、意味は分からない」が前年と比べ、小学5年生が11.7%、中学2年生が12.8%と大幅に増加した。また問18子どもの権利の認知度は「知っている」、「聞いたことはあるが、意味は分からない」が前年と比べ、小学5年生が2.4%、中学2年生が7.8%増加した。

これは例年学校において授業を通じた周知を実施していることに加え25年9月に全小中学校の教室や公共施設にポスター掲示を通して周知を図った結果と考えられる。

## 3 アンケート集計詳細

### 説明資料2-1 のとおり